

南の島 のデイサービスで ホントにあった話

高齢者介護、認知症、困ったこと、イライラな毎日を、ちょっと変えられるかも知れない、笑える、泣ける、心温まる、そんなホントにあったお話を集めました。

はじめに

高齢者の介護って、なんだか辛気くさい雰囲気があるみたいで、とにかく大変でしょう？、なんでこんな仕事しているの？、なんて思われることが多いんです。

とくに男が介護を仕事にしていると、他に仕事がないんだね、かわいそうに...なんて言われたりもします。

ところがどっこい、こんな面白い仕事は他には、そうはない、ホントウのことなんです。

自分たちの知らない、時代を過ごして来た、それこそ十人十色の人生に触れることの出来る数少ない仕事です。

そして介護が大変と感じさせる大きな原因が認知症です。

何度も同じ言葉を繰り返し聞かされ、何をどう言っても言うことを聞いてくれない、我慢もイライラも、もう限界なんて出来事も、見方を変えると面白おかしいことばかりです。

そんな、時に笑い、時に泣き、そして感動する。そんな心がポツと暖かくなれるようなお話を集めてみました。

どれもこれもが、実際にこの南の島にあるデイサービスであった出来事です。

目次

1. ちょっと困った笑える話

2. 恋の話

3. 感動した話

4. なるほど感心した話

ちょっと困った笑える話

お金がない

財布がない！
盗まれた！

その方は、持って来てもいない財布が盗まれたと、大声で訴えはじめました。

どんな財布か、大きさは？、色は？、と訊ねても、分からん、いつものやつさと、取り乱しています。

いくら入っていたのか、お札は、小銭はと訊ねても、たくさん、いや、少しだけど、いや分からんと、ワナワナと怒りに震えています。

ここにいる誰かが取ったという言葉には、真剣に「そんな人はここにはいない」ことを伝え、あとはトイレや、昼寝した場所やら行動した場所を一緒に探したりもしました。

やがて、もういい。と吐き捨てる、ドカッと席に腰を下ろしました。

そして

5分後には、大笑いしながらレクリエーションに参加しているのです。

私は怒ったことないから

私は怒ったことがない。

そう言い切るこの方は、良く怒ります。

他の方と何かと衝突することが多いのですが、ある日のお迎えの車の中で再び、そんな話になりました。

「私は怒ったことがないのよ」

続けて

「私は怒ったことないよね？」

「いいえ、よく怒ってますよ～」そう笑顔で答えると...

「あらそう、私は正直にものを言うから喧嘩になるのよね～」というとアハハと笑われていました。♪

ワン、ツー

参加者全員が輪になり、順番に「ワン」「ニャー」「メー」と犬、猫、山羊の鳴きまねを繰り返してリレーしていくレクリエーションをやった時の話です。

「ではやり方は説明したとおりです。始めますよ〜」

「ワン」と自分

すると、となりの利用者さまが。…

「ツー」

…もちろん真顔でした。

縫われたボタン

お迎えに伺うと、シャツの前を大きく開け、下着丸出しで出かけようとする利用者様の姿！

慌ててボタンを止めようとしてまたビックリ！

なんとシャツのボタンホール（ボタンを通す穴）の全てにボタンが縫い付けられているではないですか～！？

なので、ボタンをかけることが出来ません。

これでいいと笑顔で言われる利用者様にお願いをし、着替えをしていただくのでした。

歌の紙がない！

歌の歌詞のプリントが、たくさん入ったクリアファイルから、歌わなくなった歌を抜く作業を、手指の運動だからと、利用者の皆様と一緒にやっていた時の話です。

一枚のプリントを皆様に抜いてもらい、それを職員が回収しました。

次の瞬間です！

「なんで自分のものには歌の紙が入っていないか！」という大きな声！

自分で抜いたのにい～。

3人分の茶碗

ご自宅に迎えに伺うと、その日も幻覚が見えているようでした。

一人暮らしなのに、テーブルには3人分の茶碗に、ご飯がよそられています。

聞けば子ども達が来ていたのに居なくなってしまったのだとか。

自分は「きっと用事にでも行かれたのでしょうかね〜」そう言いながら、ご飯が悪くならないようにと冷蔵庫にしまうと、出掛ける準備を一緒にしたのです。

敬老会をやった日のことです

敬老会をやった日のことです。

壁には敬老の日の大きな看板、テーブルには真っ白なシーツをひき、部屋の入り口には花屋に注文した大きな花飾り！、小さな子ども達の可愛い余興に誰もが目を細め、楽しい余興にお腹を抱えて笑いました。

お昼ご飯も豪華に天ぷらにお刺身、煮物、赤飯です！

利用者様全員のお名前を一人一人読み上げ、表彰状を手渡し、首にはレイをかけて頂きました。

そしてお帰りの時間に紅白のかるかん饅頭をお渡しした時です！

「あら？、今日はなんかの日？」

すっかりそれまでのことを忘れられていました。～

まっぷたつに切られた下着

お迎えに伺うと、これから準備という状態の利用者様の下着姿。

お嫁さんが新しく買ってくれたという下着は…なんと！

シャツのように胸の前で左右が開くようにハサミでまっぷたつに！

ボタンもチャックもないので、チョッキのようにヒラヒラしています。

このほうが着やすかったのでしょうかね～。

兎にも角にも着替えていただくのでした。

恋の話

あんたが欲しい

利用者の皆様に質問をさせていただきました。

それは、今一番欲しいものは何ですか？という質問です。

「健康」「笑顔」「今で満足」

そんな言葉を聞くことができました。

最後に答える方の順番です。

自分が今一度「今一番欲しいものは何ですか？」と問いかけると…

「あんたさ」

「あんたが欲しい」

それは、まっすぐな目でした。

奪い取ってやったのに

大正生まれの女性の利用者様から笑顔で話しかけられたんです。

急に、です。

「わたしがもう少し若かったら、奥さんから奪い取ってやったのに！」

自分も返事をしました。

「そうですねえ、もう1、2歳若かったなら考えたかなあ〜」

いひい〜と笑顔が帰ってきました。

彼氏が欲しい

担当者会議（ご本人や、ご家族、担当ケアマネージャーや関係者）の場での話し。

ケアマネージャーから利用者様へ、やりたいこと等の希望がないか？という質問に対しての返事です。

「なにを言ってもいいんでしょう？」

そうですよ、なんでも良いですよ？

「言うだけだから自由よね？」

はい、そうですよ～

「彼氏が欲しい～♡」

ステキです。

この方、実年齢を考えると、見た目がと一っもお若いんですよ～。

この方は、女学生時代、恋文の仲介役になることが良くあったのだそうです。

女学生から男子学生へ、男子学生から女学生へと、恋文を何度も渡してあげていたのだそうです。

そんなある日、こんな日がやっぱり来た訳ですよ～。

密かに思いを寄せていた相手への恋文を預かってしまったわけですね。

その恋文をどうしたかって？

コッソリ家に持ち帰ると、破いてからカマドの火にかけてしまったそうですよ♪

感動した話

最後の手紙

海兵の婚約相手からの最後の手紙にはこう書かれていたのだそうです。

戦艦大和に乗って勝ってきます。

戦艦大和は沈み、婚約相手が帰ってくることはありませんでした。

結局親同士の話し合いにより、婚約相手の弟と結婚することになったのだそうですが、好きでもない相手との結婚はとっても嫌だったのだそうです。

その後、一人二人と子供を授かり、生活を続けている中で、やっと夫のことを好きになったのだというこの方は、今はたくさんの子供達や、孫、ひ孫に大切にされて、とても幸せそうです。

ぜったい伝えないといけない

戦争体験者を紹介して欲しい、そんな依頼が地元のケーブルテレビ局よりあり、デイサービスで話を聞かせてくれそうな方を選んでいただくことにしました。

利用者の皆様に事情を説明すると、目の色を変えて、ぜひ話したい、自分が話すと申し出る方がおり、実際にその方からお話を伺うこととなったのですが。...

何日後でしょうか、その方は倒れられ、入院され、1週間も経たずに亡くなりました。

どうしても話しておかなければいけないとご本人が訴えられたお話は、宮古島のみならず、沖縄県内に映像となり、放送されました。

戦争はしてはいけないよ。

ぜったいにしてはいけないよ。

最後のメッセージでした。

なるほど関心した話

なるほど関心した話

人生の賞味期限

私は35歳よ～。♪

大正生まれのその方はケタケタと笑います。

人生に賞味期限は無たってよ～ってそう言ってケタケタ笑っています。

毎週末娘さんとカラオケに言って歌い、温熱治療に行き、モスバーガーでライスバーガーの海鮮かき揚げを買って帰るのだそうです。

人生に賞味期限は無たってよ～

いつもの口癖ですが、この方が口にすると、ホントウだなあって思えて来るのです。

仏壇にあげても無くなるのはアイスクーキだけだもん。

大正生まれの利用者様が言いました。

どんなものを仏壇にあげても、仏様は食べられないよ、美味しいものは食べられる時に食べなさいという意味だそうです。

なるほど、アイスクーキは無くなりますよね。

まあ、とけちゃうって話しですよ〜。

アイスクーキとは宮古島で昔から売られている、割り箸を心棒とした氷菓子です。

習いたい事があるんだけど。

大正生まれの利用者様はそう言うと、ビニールのいわゆる三角袋に入ったものをぶら下げてきました。

中に入っていたのはピンクのカバーを着けたiPadです！

iPadですよ～！

三角袋に入れて持っていたんですよ～！

どこかに住んでいる孫と、電話が出来ないから出来るようにして欲しいとの話しでした。

結局パスワードが必要ということで、別のアメリカにお嫁にいったお孫さんにFaceTimeで通話をし、パスワードを習い、無事に設定は完了したのですが…

今アメリカって何時ですかね？、と自分

iPadの世界時計を使いこなしている大正生まれの利用者様が、もう時差を把握しているようで、まだ寝る前の時間だから大丈夫、なんて話しをしていると、なんだか不思議な感覚になっていました。

最近、カナダのバンクーバーの孫と通話が出来ないとの相談がまた来ましたが、こちらはカナダ側の端末がPCのようで、PCを使っている時にしか通話出来ないようでしたので、そう伝えると、そういえばそんなこと言っていたね、と一発で納得されていました。

大正生まれ、恐るべし…

その人は出生届を頼まれたものの、そういえば、男か、女かも聞き忘れていたということで、とりあえずは男で届け出たのだそうです。

名前も勝手にマサオと届け出ました。

役所には、島から船に乗り、更に馬車に揺られていかなければいけないので聞き直すのも面倒だったのかもしれませんが。

実は生まれていたのは女の子、デイサービスの利用者様です。

戸籍は男だったので、なんと徴兵検査を受けることになったのだそうです。

結果は不合格、そりゃあそうですよね。

明らかに女性と分かっているにもかかわらず、戸籍が男だからと徴兵検査は受けなければならなかったそうです。

笑って聞かせてくれました。

南の島のデイサービスでホントにあった話

<http://p.booklog.jp/book/90872>

著者 : kamosan4726

著者プロフィール : <http://p.booklog.jp/users/kamosan4726/profile>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/90872>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/90872>

電子書籍プラットフォーム : ブクログのパー (<http://p.booklog.jp/>)

運営会社 : 株式会社ブクログ